

02. 事業別情報 | LNG船、電力、海洋事業

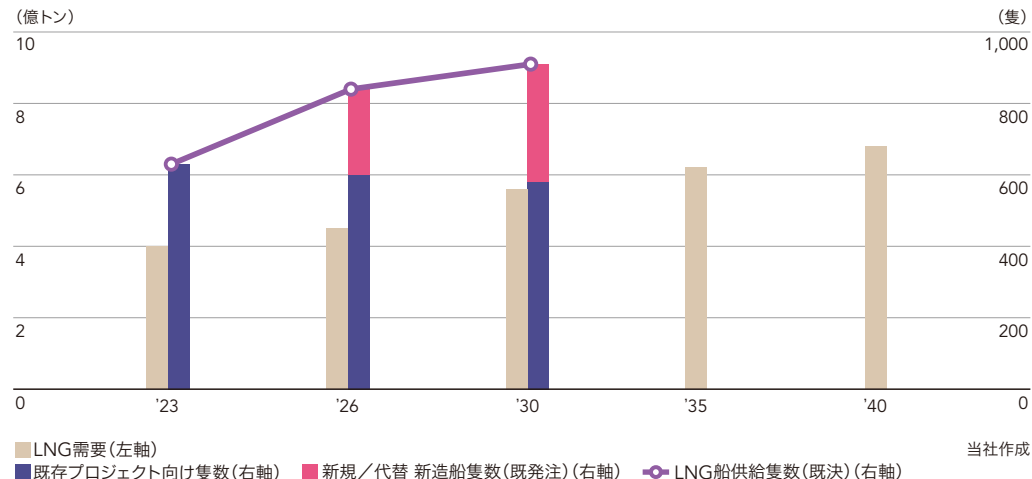
LNG船社ランキング

(2024年3月時点)

ランキング	会社名	隻数
1	商船三井	97
2	日本郵船	91
3	Nakilat	69
4	川崎汽船	46
5	Maran Gas	45
6	Seapeak	44
7	MISC	30
8	Gaslog	27
9	Bergesen Worldwide	26
10	飯野海運	25
10	Knutsen	25

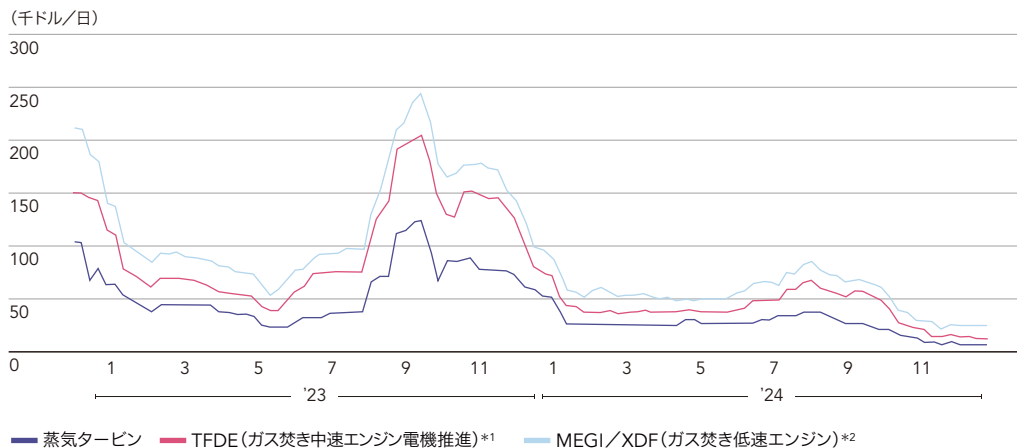
当社作成

LNG需要と船腹供給推移



当社作成

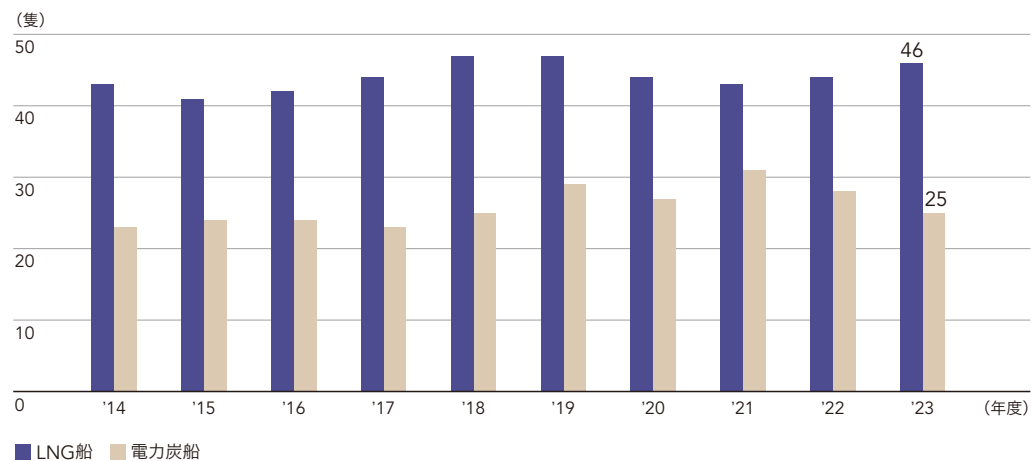
LNG船 備船料推移



*1 ガス、軽油、重油の3種を燃料とする中速4ストロークエンジンにより発電した電気を用いて、モーターにより推進力を得る推進プラント。
*2 ガス、軽油、重油を燃料とする低速2ストロークエンジンから推進力を得る推進プラント。

出典：SSY

当社LNG船・電力炭船隻数推移(共有船含む)



02. 事業別情報 | 油槽船、燃料事業

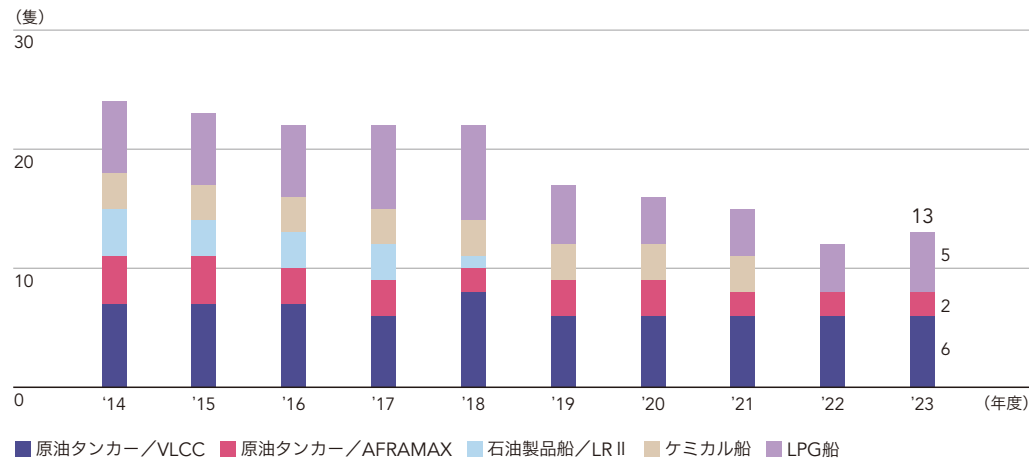
VLCC 船社ランキング

(2025年1月時点)

ランキング	会社名	重量 (10万トン)	隻数
1	China Merchants	161.0	52
2	China COSCO Shipping	138.1	45
3	Bahri	137.2	44
4	Fredriksen Group	123.2	41
5	Angelicoussis Group	117.7	37
6	Nat Iranian Tanker	117.6	38
7	Sinokor Merchant	79.6	26
8	DHT Holdings	74.8	24
9	商船三井	70.8	23
10	SK Shipping	56.3	18
30	川崎汽船	18.4	6

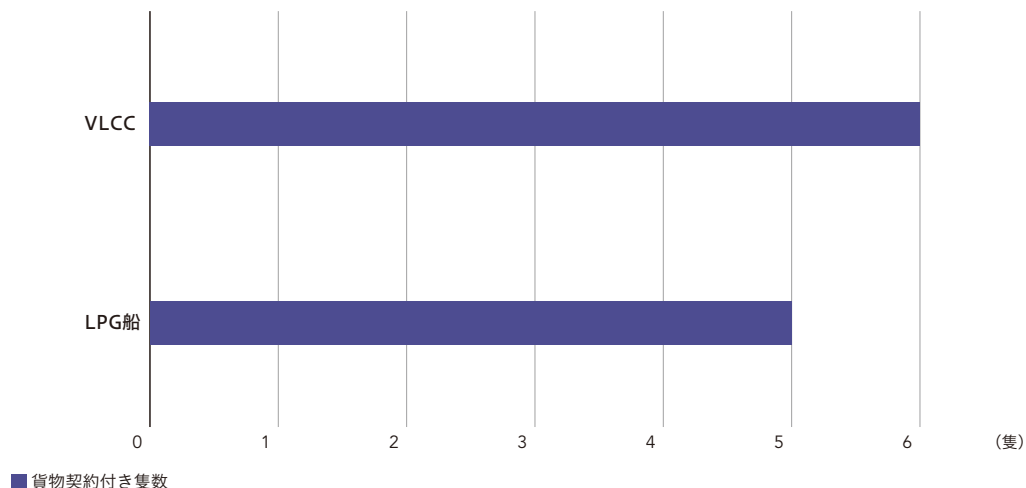
出典：Clarksons

当社油槽船(タンカー) 船種別船隊推移

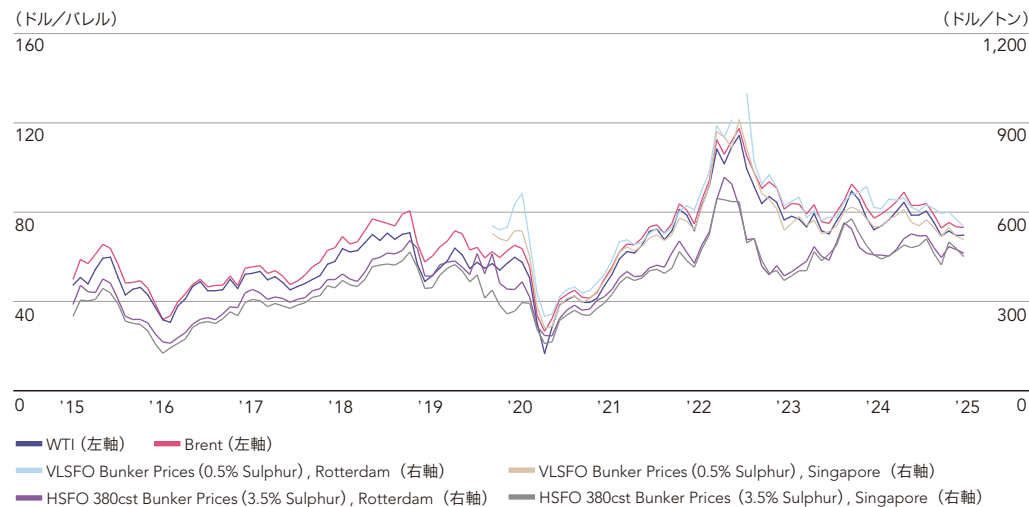


当社油槽船 船型別 貨物契約カバー割合(2024年度)

(2025年1月時点)



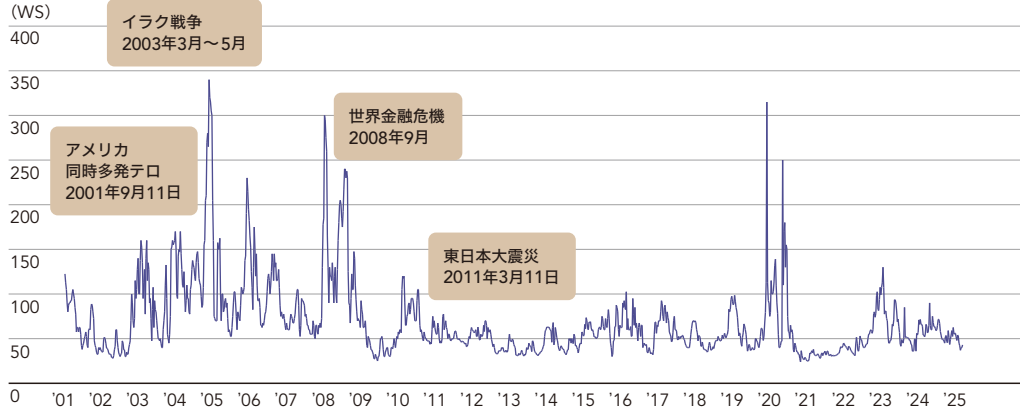
原油・燃料油価格推移



ClarksonsおよびRefinitivより当社作成

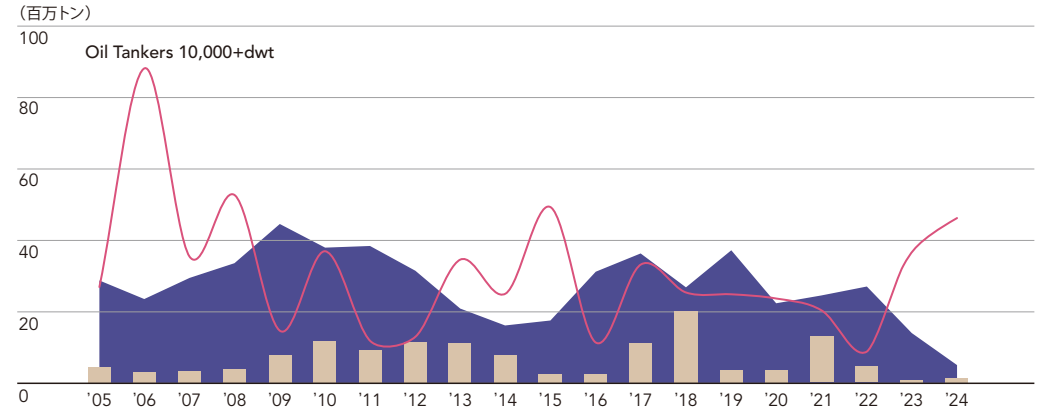
02. 事業別情報 | 油槽船、燃料事業

タンカー 運賃指数 (WS:ワールドスケール) 推移



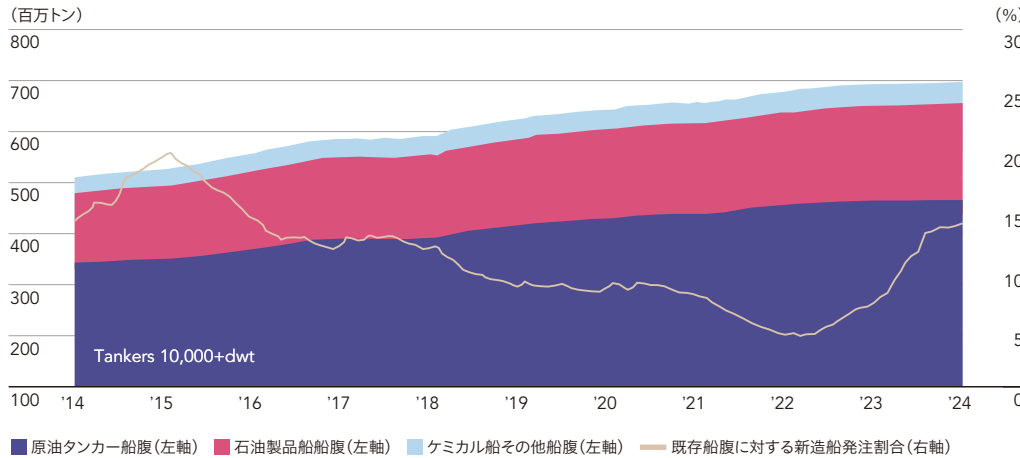
出典：Clarksons

タンカー 船腹供給量推移



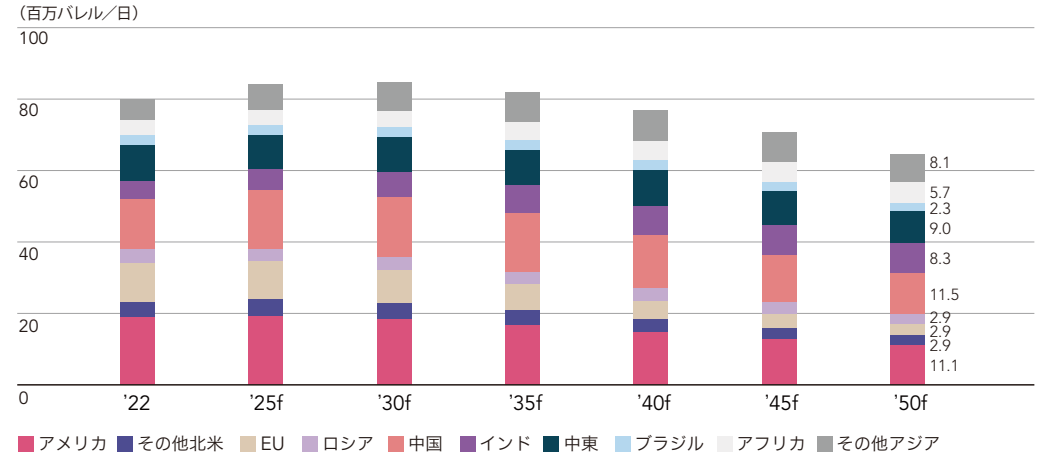
出典：Clarksons Oil & Tanker Outlook

タンカー 船腹量および新造船発注割合推移



出典：Clarksons Oil & Tanker Outlook

国別石油需要予測



出典：World Energy Outlook 2024

02. 事業別情報 | 海洋、燃料事業、低炭素・脱炭素に向けた事業

ドリルシップ事業 (Mobile Offshore Drilling Unit)

- 2009年に「エテスコプロジェクト」への共同参画を果たし、最先端のドリルシップを共同保有。
- 2012年からPetróleo Brasileiro S.A.への傭船を開始。傭船期間は20年。現在、リオデジャネイロ沖200kmのプレソルト層鉱区で掘削作業を実施。
- 水深3,000m、海底下9,000mまでの掘削能力を保持。



ドリルシップ「ETESCO TAKATSUGU J」

FPSO事業 (Floating Production Storage and Offloading System)

- 浮体式石油・ガス生産貯蔵積出設備。
- 2017年にガーナ沖油ガス田向けFPSO保有・傭船事業参画に関する契約締結。
- Eni Ghana Exploration and Production Ltd向けに2017年より傭船中（期間15年間）。
- ガーナ沖南西約60kmのOffshore Cape Three Point (OCTP) 鉱区において原油とLNGを生産中。
- 2020年7月、ブラジル沖Marlim鉱区向けFPSO保有・傭船事業への参画を発表。



ガーナ沖で操業中のFPSO「John Agyekum Kufuor」(提供：インソン社)

LNG燃料供給事業 (LNG Bunkering Business)

- 2020年10月に、当社、株式会社JERA、豊田通商株式会社、日本郵船株式会社と共同で出資する合併会社を通じて、中部地区における船舶向けのLNG燃料供給事業を開始。
- 2021年3月、LNG燃料供給船「かぐや」が、LNG燃料焚き自動車船「CENTURY HIGHWAY GREEN」に Ship to Ship (船から船への) 方式でLNG燃料を供給。
- 2021年2月にFueLNG Pte Ltd*が保有するシンガポール初となるLNG燃料供給船「FUELNG BELLINA」の船舶管理を開始。

* Keppel Offshore & Marine Ltd (Keppel O&M) および Shell Eastern Petroleum (Pte) Ltd が共同で設立した LNG 燃料供給事業会社



LNG燃料供給船「かぐや」とLNG燃料焚き自動車船「CENTURY HIGHWAY GREEN」(提供：セントラルLNGマリンフューエル社)



LNG燃料供給船「FUELNG BELLINA」(提供：FueLNG Pte Ltd)

低炭素・脱炭素に向けた事業

川崎汽船の環境ビジョンの一つである「社会の脱炭素化支援」に向けて、液化CO₂輸送事業・LNG輸送船周辺事業・洋上風力発電支援船事業・水素/アンモニア輸送事業の4つの事業に同時並行で取り組み、バランスの良い新規事業ポートフォリオ形成を目指します。

液化CO₂輸送事業

ノルウェーのNorthern Lights社と7,500m³の液化CO₂船3隻の裸傭船契約及び定期傭船契約を締結しました。2024年にはこのうち2隻が竣工し、世界初の本格的なCO₂回収貯留 (Carbon dioxide Capture and Storage : CCS) プロジェクトに従事します。

ロンドンを拠点とする子会社「K」Line LNG Shipping (UK) Ltd.が、本船の船舶管理を行い、Heidelberg MaterialsやHafslund Oslo Celsiusなど、複数のCO₂回収施設からノルウェー ØygardenにあるNorthern Lights社のCO₂受入基地まで液化CO₂を輸送します。当社は、世界初のNorthern Lightsプロジェクトでの実績とノウハウを礎に、業界のトップランナーを目指します。

Northern Lightsプロジェクトに従事する液化CO₂船「NORTHEN PIONEER」(提供：Northern Lights JV DA)

LNG輸送船周辺事業

FSUとFSRUを中心として、重要顧客とのパートナーシップに基づき、LNG船隊の活用も視野に、当社LNG輸送船事業への貢献・シナジーを追求します。



FSRU係留のイメージ図

洋上風力発電支援船事業

川崎汽船と川崎近海汽船の合併会社であるケイライン・ウインド・サービスと、EGS Survey Pte Ltdは海洋地質調査事業を対象としたEK Geotechnical Survey 合同会社を設立しました。同社は、洋上風力の発展に伴い需要の拡大が期待される洋上地盤の調査需要に対応すべく、洋上ボーリングを始めとして、様々な海洋調査サービスを提供しています。2024年9月には、地質調査船「EK HAYATE」が洋上ボーリングのサービス提供が可能な日本籍船として就航しました。当社グループは、社会のカーボンニュートラル化に向けた洋上風力発電産業の発展に貢献してまいります。



地質調査船「EK HAYATE」

水素/アンモニア輸送事業

2023年9月、将来、液化水素運搬船(右イメージ図参照)を保有することが想定される、日本水素エネルギー株式会社の子会社JSE Ocean株式会社へ第三者割当増資にて資本参加し、協業することに合意しました。

JSE Oceanを通じて商用規模の国際水素サプライチェーンにおける液化水素の海上輸送事業スキームの検討を共同で実施していきます。

また、電力・ガス・石油会社・その他産業向けの水素・アンモニア輸送案件に注力していきます。



液化水素運搬船イメージ図(提供：川崎重工工業株式会社)